



# Mitsui V-Net

## Mitsui Volunteer Network Center

### 三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.62

2020年1月1日発行

#### 新春のご挨拶

三井ボランティアネットワーク事業団  
理事長 山内 卓

あけましておめでとうございます。  
います。

昨年7月に八木前理事長よりバトンを受け理事長に就任致しました。

日頃は三井 V-Net の活動に多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。



三井 V-Net は、わが国が未曾有の高齢社会を迎える時代に、高齢者が社会活動に積極的に参加し活躍できるための場を、三井グループとして社会に提供することが急務との認識に基づき、1996年に創設され、今年で24周年目を迎えることができました。

シニアの生き甲斐づくり支援を趣旨に設立された本事業団は、三井グループの枠を超えた社会貢献活動へと発展、進化を遂げ、三井グループ運営会員各社(現行20社)のOB・OGに一般参加の方々を加えたボランティア登録会員は、1,500名(2019年3月末現在)を超え、①国際交流、②環境保全、③医療・福祉、④文化・教育の4分野において、年間延べ10,000名を超える方々がさまざまなボランティア活動に活躍されており、活動関係先からも高い評価を頂いております。

東京本部では、国際交流、医療・福祉分野に部会が設立され、精力的に活動が実施されています。国際交流分野では、東京大学部会で第5回留学生交流会を開催し、大学、留学生から好評を得ました。また、医療福祉分野では、恒例のエリザベス・サンダース・ホームのチャリティーコンサートが13回目を迎え、収益金を関係先に寄附させていただきました。

関西支部では、神戸大学で、「兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業(G-Navi)」との連携により、企業訪問や社会見学を通じて留学生の視野を広げる活動への支援を行っています。また、文化

活動として、大阪の司馬遼太郎記念館、京都の旧三井家下鴨別邸へボランティアを派遣している他、若年層もしくは現役世代のボランティア会員を中心に、ゴルフトーナメントやマラソン、ラグビーワールドカップ等スポーツイベントも積極的に支援しています。

中国支部では、恒例の広島平和記念公園での清掃活動が、昨年末までに延べ149回を数えました。併せて地域の外部団体とも緊密に連携を図り、地道な活動を続けています。

一方、今後の課題としては①三井 V-Net の今後の方向性②新規ボランティア登録会員の拡大③運営会員会社の拡大の3点があります。

まず、三井 V-Net の今後の方向性につきましては、設立後20余年が経過し、社会環境が変化しつつある中、三井ブランドの価値創造を実現するために三井 V-Net の活動内容、組織体制はどうあるべきかにつき、会員会社の運営委員の皆様方と継続的に議論を深めてまいります。

一方で、定年・雇用延長に伴い三井 V-Net 会員各位の高齢化が進んでおり、新規ボランティア会員の拡大は喫緊の課題です。会員会社のOB会等での告知を改めて徹底するとともに、定年を迎える少し前の比較的若い世代をターゲットに、キャリア研修等の機会を活用して、現役社員にも三井 V-Net の認知度アップを図ります。

運営会員会社の拡大につきましては、二木会・月曜会メンバー会社の未加入会社及び休会会社への新規加入あるいは復会の勧誘に引き続き積極的に取り組んでまいります。

三井 V-Net としては、今後ともボランティア活動の活動頻度アップと質の向上に努め、三井グループとしてのCSR活動の一翼を積極的に担うとともに、三井ブランドの更なる価値向上を目指し努力してまいります。引き続き皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、今年一年の皆様のみますご健勝ご発展をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

## 本部

### 2019年10月ウエルカムウォーク実施報告

横浜国立大学部会 行事幹事 坂本 健(三井物産 OB)



JR桜木町駅前 散策スタート前の集合写真

2019年10月入学留学生を主な対象として同月5日(土)にウエルカムウォークを実施した。本行事は横浜国立大学主催で運営は当部会が担当している。

今回も晴天に恵まれ参加者は26の国、地域からの留学生40名、会員20名であった。

留学生の国籍内訳は米2、独4、英3、仏2、インドネシア4、台3、豪2、ベトナム2、ベルギー他欧州4か国、韓国他アジア4か国、ルワンダ他アフリカ5か国、およびイラン、コロンビアそれぞれ1名。

当日は4月に続き晴天に恵まれ多数の留学生が参加した。ランドマークタワーを背景に集合写真を撮り、帆船日本丸・ワールドポーターズ、赤レンガ倉庫を経由し開港資料館、大さん橋、山下公園と港みらい地区を楽しんだ。途中開港資料館では十分時間を取り横浜開港以来の歴史を学んだ。また山下公園のあと希望者を中華街(関帝廟)へ案内した。

最終地点の山下公園は、1923年の関東大震災のあと、その瓦礫を埋め立てて造ったものである。海岸遊歩道などの案もあったが、最終的に海岸公園「山下公園」として1925年に着工、1930年に完成した。1961年には氷川丸が東側に係留され、1965年には臨港鉄道(桜木町-山下埠頭)が開通し、1986年まで同公園の南側を高架で貨物列車が走っていた。

帆船日本丸付近からワールドポーターズ付近までは「自動車道」として、また赤レンガ倉庫から山下公園の手前の大さん橋入り口まで高架の「山下臨港線プロム

ナード」として現在も残されており、大勢の観光客の散策に使われている遊歩道である。

マリントワー、一時GHQの本部であったホテルニューグランドも目の前にあり、山手の外人墓地、元町商店街、中華街と並んで横浜の中心的な観光スポットであった。みなとみらい地区が再開発され華やかさを誇っているが、右に氷川丸、左に大型クルーズ船が頻りに停泊する大さん橋などの景観に加え、充実したバラ園など整備し、さまざまなイベントも開催するなど往時の輝きがを残し、多くの観光客に親しまれている。

おかげさまで事故もなく無事終了することができました。参加者皆様のご協力に感謝します。



開港資料館玄関脇での風景

### 東大近郊散策イベント(2019年6月30日)

東大部会 津田智子(三井物産 OG)

東大部会の春のイベント、東大近郊散策に参加しました。

梅雨のさなか、お天気が心配されましたが、幸い大した雨にも降られず、留学生6名、会員7名、事務局1名の計14名で本郷周辺を散策しました。

東大本郷キャンパスに10時に集合し、まず旧岩崎邸庭園に向かいました。あいにく外壁の修復工事中で外観の一部が隠れてしまっているのが残念でしたが、室内の造作が素晴らしく、建築当時の技術の高さを感じられました。興味深かったのは、豪華な造りの洋館より和館のほうが落ち着いていて好きだと話している学生がいたことです。

岩崎邸見学後は、湯島天神へ。10分ほど歩いて天神様に着くと、ちょうど茅の輪(ちのわ)くぐりという神事の最終日でした。茅で編んだ大きな輪を皆でく

ぐって暑気払いをしたり、お参りしたり、お守りを買ったり…、それぞれに神社の雰囲気を楽しんだ後、水道歴史館へ向かいました。



水道歴史館では、レクチャーホールで昼食後、参加者の簡単な自己紹介をしました。留学生それぞれの個性が感じられた楽しいひとときでした。

水道歴史館の展示テーマは、2階が玉川上水など江戸時代の上水のしくみ、1階が明治以降の近現代の水道の歴史や現在の漏水/耐震対策となっています。英語ガイドによる解説付きでしたので、学生の皆さんにもわかりやすかったのではないのでしょうか。江戸時代の長屋の再現展示には、特に興味を惹かれたようでした。また、高度な漏水技術や耐震水道管の接合部分の工夫には、私たち会員も驚かされました。最近自宅周辺で水道管の耐震対策工事が盛んに行われていますが、これに交換していたのね、と納得です。

最後に文京シビックセンターの展望台へ行き、そこで解散となりました。あいにくの曇り空で、眺めがいまひとつだったのが残念です。



もうすぐ七夕ということもあり、行く先々で七夕の飾り付けがされていて、織姫彦星の話にも花が咲

き、仙台の七夕に行ってみたくと話す学生もいました。また、都立公園や文京区の案内のパンフレットを見て、本郷周辺にも行ってみたいところがいろいろありそうと話す学生もいました。

このイベントが、日本の文化に触れる新たなきっかけとなってくれるとうれしいと思います。

#### 《留学生感想文》

東大留学生 高 姍 (中国)

このたびは三井 V-Net が主催した東大近郊の散策イベントに参加させていただき、とても貴重な経験になりました。

まずは三菱を創設した岩崎家の邸宅として建てられた、旧岩崎邸に行きました。旧岩崎邸は洋風建築と和風建築の組み合わせたものなので、洋風建築の豪華と和風建築の質素が感じられました。洋風と和風のバランスは素晴らしいと思っております。

接客空間として使われている洋館は天井が高く、部屋が大きいです。各部屋ごとの壁紙の模様が用途によって違った金唐革紙で作られています。当時岩崎家が使った食器も展示されています。このような風景を見ると、明治時代の岩崎家の部屋の中で接客している様子が頭の中に浮かんで来ました。

生活空間として使われている和館に入ると、すぐに落ち着いた雰囲気になりました。色々な良質な木材が使われているので、とってもいい匂いがしていました。扉の取っ手、換気口などの個所に岩崎家の家紋が見られます。建築家の工夫と家族の伝承にとっても感心しました。

その後、東京水道歴史館を訪ねました。毎日使っている水道水の歴史を学びました。昔から、私たちにきれいな水道水を飲ませるために、いろいろな方々がたくさんの工夫をしていることがわかりました。ということで、今飲んでいる水道水を当たり前にしなくて、大事にしなければいけないと思います。また、水道局は災害が発生した場合においても水を確保するため、対策しているのにびっくりしました。確かに日本はたくさんの災害から立ち上がった災害に強い国です。

今回のイベントに参加することで、日本の歴史をもっと理解できるようになるだけではなく、色々な国の留学生と出会いました。お食事の時にも、ボランティアの方たちとたくさん話をしました。みなさんがいろいろな場所で活躍しているのを見て元気もらいました。



#### 書道教室開催 (2019年9月6日)

東大柏部会 杉浦 正和 (武蔵大学非常勤)

今回は夏休み中に開催することとなって、9月6日に研究員の奥さんと娘さんを含めて7カ国14名(男性3

名)の方が参加して書道教室が行われました。ずっとお世話になっている柏市書道協会から先生方が9名来ていただき、三井V-Netから7名と大学側スタッフ2名がお手伝いをして、図書館のコンファレンスルームで1時間半の書道体験を楽しみました。

開会の挨拶の後、「春夏秋冬」の漢字が篆書・隸書・草書・行書・楷書とホワイトボードに並べられた前で、協会の染谷会長が書道の歴史や特徴を会員の三澤さんの通訳で説明しました。「書は、文字を大切に、人の心に映る思いや感動した言葉を表現するものなのです。」ということで、まず先生方が用意したさまざまな手本から書きたい字を選びました。そして、左に見本、右に半紙と文鎮を置き、硯に入れた墨汁から筆に墨をつけて、みんなが筆を動かし始めたのです。

筆を上手に扱えない私は、大半の人がたどたどしく筆を動かすのかなと思っていましたが、みんなが元よく書いていくのに驚きました。全く初めてのようインド人女性は「和」に取り組み始めたけれど、一緒に来ていた男性は最初から「愛」に挑んで半紙いっぱい大きく力強く書き始めました。かたや、易しい漢字一文字だけれど次々と字を換えて作品を大量につくっていくフランス人男性。彼は、自分の名前を半紙のいろいろな場所に書いて楽しんでいました。中国の女性たちは、しっかりと筆を立ててゆっくりと書に向っていました。スペインの女性は書道が好きなのでしょう、「学知利行」という行書に向っていて、その見事な筆遣いに驚かされました。その隣では、かなり遅刻してやってきた中国の男性が、講師と話しながらさまざまな行書に挑んでいました。この二人の書道は全く別格でした。

この間、協会の先生方がゆっくりした日本語で声をかけたり、学生の手を支えて字を書いたりしていました。こうして書による自己表現を楽しむ一時間半の中



会長が書道の歴史や特徴を解説



一人ひとり丁寧に手を取って指導

で、柏市の文化祭と東大柏のオープンキャンパスで展示する作品を完成することになっていました。練習用の半紙とは違う色紙

に仕上げるのだけれど、中々納得できずに何度も何度も最終作品をやり直す人が続出しました。その意味で、最後の講評で染谷会長から、今年はとても熱心に作品を創り上げようとした人が多かった、と褒められるほどでした。

ちょっと時間がオーバーして、昨年から始めた懇親会を隣の部屋でお菓子を食べながら行いました。こうやって交流していると、日本人とは違う人に見えたりするけれども、みんな同じ気持を持って書道を楽しめるのだとあらためて感じました。最後に、みんなで記念撮影をして楽しい書道教室を無事に終わりました。来年はもっと多くの参加があることを祈りたいです。

## 千葉大部会 留学生向け「社会見学会」

千葉大部会世話人 井出 袈裟繁  
(東洋エンジニアリングOB)



味の素川崎工場にて

三井V-Net千葉大部会では、千葉大留学生向けに各種のサポートプログラムを実施しています。その中で海外からの留学生

に日本をよく知ってもらいたいという主旨で毎年、「社会見学会」と称して、日帰りバス旅行を手配しそのお手伝いをしています。バスは千葉大に提供していただき、その企画実施にあたっては千葉大部会が協力するというものです。従って、千葉大を起点にしバスで日帰りで行ける範囲の企業(会社)に声をかけ、日本企業の物作りや物流の実態を留学生に見聞してもらうという企画です。

令和元年の企画では、川崎方面に焦点を当て、日本企業としては「味の素・川崎工場」に見学先を選定することができました。「味の素・川崎工場」では、幸

い「ほんだし」の製造プロセスの見学を提供していただけました。留学生も味の素工場の優れた食品衛生管理や製造工程を見学し、また昔ながらのかつお節を「かな」を使って削り出す体験も盛り込んだ見学行程を楽しみ、お土産に「味の素」小瓶を頂戴しにこにこ顔でした。

川崎といえば、「川崎大師」や「川崎マリエン」の見学も盛り込むことができました。現地ではボランティアの皆さんの説明案内も



川崎マリエンにて

受けることができ、留学生も大喜び。日本の著名な神社・仏閣の一つを併せて訪れることができ喜びの一日でした。川崎からの帰途は、東京湾を横切るアクアラインを通って、留学生に海底トンネル部分や水上部分のドライブ体験も味わってもらうことができ、「海ほたる」パーキングエリアにおいて休憩をはさみ、夕刻には予定通り千葉大キャンパスに戻ることができました。今年の留学生の参加者は例年より少な目でしたが、ミャンマー、中国、韓国、トルコ、メキシコ、フランス、タイ、ネパール、インドネシアなどの各国の留学生が参加しました。留学生が多国籍に及ぶことから、千葉大会では例年、日本語のみならず、英語での案内もできるよう対応してきています。ちなみにこの「社会見学会」は、過去から今日まで、火力発電所、ステンレス製品工場、自動車工場、JAXA、醤油工場、国会議事堂、ビール工場、化粧品工場など幅広く機会を設けてきています。各国からの留学生も日本の優れた製造技術・工程管理等々を満喫されてきていると信じております。

## 目黒雅叙園「いけばな×百段階段 2019」鑑賞 (2019年10月26日)

駒澤大学部会 竹田 努 (三井住友信託銀行 OB)

秋晴れの日、駒澤大学の留学生9名と三井V-Net会員9名で生け花と日本の伝統建築鑑賞を目的に目黒雅叙園・百段階段を訪れました。

その一ヶ月前、大学において事前勉強会を行いました。



た。テーマは「生け花とは」「見学の見どころ」で、内容は生け花とフラワーアレンジメントの違い、生け花のルーツ、生け花の表現するもの、生け花の美およびいけばな展と百段階段各部屋の建築・工芸の見どころについてパワーポイントを用いて具体的に解説して理解を深めてもらいました。

「いけばな×百段階段 2019」は9月20日から11月13日の8期にわたり一週間交替で延べ45の生け花流派の作品が展示されています。

当日はまず玄関ロビーを入り、そこに展示されている身の丈を超えるととても大きな生け花作品に眼を奪われました。留学生は皆競うように写真を撮り、その後黒漆に螺鈿細工の見事な工芸のエレベーターで百段階段へ向かいました。

1935年建築の東京都有形文化財でもある木造日本建築には、花鳥画が描かれ黒漆の螺鈿細工が随所に見られる重厚な部屋、純金箔・純金泥で仕上げられ彩色木彫と日本画に囲まれた絢爛豪華な部屋、美人画の画家が愛着をもって造った落ち着いた茶室風の室、またそれぞれの部屋の天井、欄間および障子建具など生け花とともに鑑賞するものがあまたありました。留学生はそれぞれの興味によって生け花作品を見入る者、豪華な部屋の装飾・工芸に目を奪われて三井V-Net会員の説明を熱心に聞いている者、また最上階の部屋に展示された生け花の解説・歴史パネルを端から端まで読む者とさまざまに楽しんでいました。なかには気に入った生け花作品を展示した部屋に再び戻って食い入るように鑑賞している学生もいました。

百段階段各部屋の生け花や建築・工芸を鑑賞したのち





目黒雅叙園ロビー回廊の彩色木彫板や豪華なトイレを見学して「昭和の竜宮城」と呼ばれた文化財を堪能しました。多彩な日本の伝統美を満喫した一日でした。

## エリザベス・サンダース・ホーム (以下 ESH) での湘南倶楽部会員 夏の活動

【2019年8月3日 子供たちと木工教室】  
湘南倶楽部会員 石渡戸 征治 (三越伊勢丹 OB)

夏休みに入ってまもなくの8月3日、ESHの子供たち16名と湘南倶楽部会員8名、さらにESH職員の方々にも入っていただいて、ESH交流スペースにおいて、午前10時より木工教室を開始しました。講師は湘南倶楽部会員、高橋恵太郎さんで、準備いただいたのは、「鳥の巣箱」、「本立て」、「ペン立て」、「小物入れ」、「マガジンラック」等々でした。

高橋さんには事前に製品ごとに木材を裁断、それぞれワンセットごとにまとめ、子供たちがすぐに組み立てができるように準備をしてくれていましたが、普段、釘打ちの経験のない子供は釘を打ち始めるとすぐに釘が曲がってしまう等、苦戦をしている子供が多かったです。しかし、会員や職員皆さんの手助けもあり、1時間程度をかけて完成すると、子供たちはマジックで完成した製品に絵をかいたり、名前や記号を入れたり、思い思いに製品作りを楽しんでいました。そして終了後、講師、会員の皆さんにお礼の挨拶をして解散しましたが、子供たちは、自分で制作した品を大切に抱えて自室へ。

短い時間ではありましたが、夏の工作物が完成して子供たちにとっては夏の思い出の一つになってくれたと思っています。

会員の皆さんも子供たちと木工製品を作ることが大変懐かしく、子供のころを思い出しながら、童心に帰った感じで2時間近くを楽しく過ごすことができましたと話していました。



児童、会員による制作風景



ESH職員・会員の集合写真

終了後は近くのうどん屋さんでお疲れ様会を開催、ビールが大変おいしかったです。

【2019年9月14日 ESH園内清掃】

湘南倶楽部会員 畦地 敏則 (三井物産 OB)



中庭 清掃前の集合写真

夏の暑さが残る9月14日土曜日、6月以来の園内清掃を開催しました。この9月清掃で93回目の開催となります。

会員の参加は15名、東芝エレベータの現役社員の皆さまは子供さんを含めて17名と多くの方が参加して下さいました。台風15号の影響で園内の木々が倒れている箇所もあり、清掃箇所が従来以上に多くなりましたが、大変暑い中にもかかわらず、参加された皆さんが精力的に動き、当初予定した清掃内容を十分クリアすることができました。

今回は園内の子供たちも積極的に手伝いをしてくれて、普段以上に和やかな清掃活動となりました。毎回木々等を中心に廃棄物の処分を引き受けて下さっている旭商会さんの運転手の方にもいろいろお手伝いをいただきました。

東芝エレベータの皆さま、旭商会さん、今回もご支援本当にありがとうございました。



清掃前に準備運動風景

## 本部、関西支部

### KEEP THE STADIUM CLEAN (協議会場美化活動) に参加

本部、関西支部事務局

“KEEP THE STADIUM CLEAN” 活動に参画し

ている三井不動産(株)のご協力を得て三井V-Net 本部、関西支部にて同活動の一環として実施されたラグビーワールドカップ 2019 日本大会の試合会場で来場者にごみ袋を配布する活動に参加しました。

本活動は競技会場の美化を通じ「ゴミの落ちていないキレイな街」の文化をレガシーとして後世に残すことを目指すプログラムです。

参加していただいた会員の方々にはご協力いただきましたこと御礼申し上げます。

活動日、活動会場、活動人数は以下の通りです。

(本部) 活動日：9月22日／活動人数：5名／

会場：横浜スタジアム

(関西支部) 活動日：9月26日、30日、10月3日、8日／活動人数：延べ14名／

会場：神戸市御崎公園球技場

(参加会員感想)

本部参加者 宮守 哲二(三井物産)



右から2人目が筆者

今回久しぶりに三井V-Netの活動に参加させていただきました。

横浜スタジアムでのラグビーW杯試合前のゴミ袋配布のボランティアで

したが、夫婦で参加しとても楽しく充実した一日でした。

地元横浜での試合ということで心が躍り、また試合のチケットが取れなかった無念さも加わり、せめて何らかの形で関わりたいという願いで応募したのですが、願いは通じるんだなど。

試合前のスタジアムの雰囲気を味わえただけでもラッキーでしたし、一緒に準備したトップリーグのラグーマンボランティアと話ができたのも役得でした。

ボランティア開始後はごみ袋の配布に最初は苦戦するも、徐々に調子が上がり、訝しく時々受取りを拒否される外国人の方にも臆せず配り続けた結果、1時間強で約1,000枚を配り終えました。

後で思えばごみ袋のデザインが良かったため受け取ってもらったのでしょうか、受け取った皆さんが感謝してくれることがとても励みになりました。

必ずしも純粋とは言えない動機での参加ではありましたが、終了後に駅でお疲れ様ビールを美味しく飲めたことと、何かしら貢献できた思いで気分良く1日が過ぎせたのがさらに良かったです。

またの機会があれば、是非参加させていただきたいと思います。東さんはじめ、今回コーディネートをいただいた事務局の皆さまに感謝したいと思います。有難うございました。

関西支部参加者 望月 幸次郎(登録会員)



右側筆者

9月26日、場所は神戸市御崎公園球技場。私たちのボランティア活動の任務は「ごみ袋でドライブプロジェクト」。ごみ袋を入場者に7,000枚配布する

仕事で、持ち場は東ゲート付辺です。

午後4時45分、東ゲートオープン。入場者が駆け足で入って来ますが、始めは「ごみ袋」をあまり受け取ってもらえません。外国人の方は受け取ると「サンキュー」「ありがとう」。要らない時は「ノーサンキュー」。一方、日本人はただ受け取っていただけでした。そのうち、なんとかスムーズに渡せるようになりました。

1時間半ぐらい経ったころには、カネ・タイコ・笛の鳴り物の部隊がリズムに合わせて踊っています。みんな「ノリ」がすごくいい。多分入場者の4分の1以上は外国人で、スタイルもラフ、ビールをよく飲む。試合前からグラウンド外で大騒ぎのおまつりの雰囲気を楽しんでいました。

午後7時15分、配布終了。約2時間半、立ちっ放しでした。足・腰は、何とかいうことを聞いてくれそうというほど疲れました。目の前で販売しているビールをやたら飲みたくなりました。

あの鳴り物の部隊がやって来た時に外国の人達と一緒に楽しんで、仲間・同胞として溶け込むのが、日本人としてのおもてなしだったかと少し残念に思いました(来年もこうした機会がありますように……)。

## 関西支部

### アジアの娘二人(三井 V-Net の一対一交流に参加して)

伏見 章子 (登録会員)



左端筆者、右端留学生ハンさん

初めての交流は、2016年ベトナムからの留学生、経済学専攻のG・M・ハンさんです。

神戸大学の百年記念館でマッチングを受け、次の交流は神戸大学瀧川記念館で昼食を一緒にとることを約束しました。

私宅は大阪の池田市です。池田市は豪州タスマニア州ロンセストン市と姉妹都市交流があり、ちょうどロンセストン市からホームステイ中のF・フレッドと娘と共に神戸大学へ行き、G・M・ハンさんと4人で昼食を一緒にしました。お互いの国の話、日本で感じたこと等々話がはずみ、閉店時間を迎えてしまいました。

三井V-Net企画プログラム「神戸市立博物館から旧居留地を歩こう」にもフレッドと娘も参加し、神戸市立博物館では大人気のエジプト展と、神戸旧居留地の歴史を秘めた街並を体感しました。神戸に疎い私は、ハンさん以上に学ぶことが多かったと思いました。

ハンさんの希望に、“自国でできない体験”の一言がありましたので、畳に布団の一泊体験もしていただきました。畳の寝心地は“良かった”と言ってくださいました。

2018年神戸大学ボランティア活動発表会後の親睦会で、ミャンマー出身のM・ナインさんと話す機会があり、その後、留学生交流会で再会したことから一対一交流が始まりました。神戸新聞社見学をご一緒し、阪神淡路大震災時の報道



留学生ナインさんと友人

を交えた展示の迫力で報道の在り方を学び、その後、みなと公園に行きました。

ナインさんは友人と行ったので2度目と、私を案内。立場が逆と笑い合いました。“私の一番好きな場所”とか。庭の梅が満開の時は、親友と2人来宅。

和服体験。梅の前でスナップを撮りました。

“ミャンマーで会いましょう”の一言が嬉しい交流です。

### 韓国留学生 パク・ユンドンさんとの交流

西櫻 光一 (東レOB)

2018年5月からスタート、韓国留学生パク・ユンドンさんと現在まで不定期で交流した状況を紹介させていただきます。



筆者ご夫妻と留学生パク・ユンドンさん

きます。彼は同志社大学グローバル地域文化学部・アジア太平洋コース2回生、26歳男性です。将来は日本で就労し、できれば公務員を希望し、大学では書道部に所属、バンドボーカル、各地の自転車旅行などに興味を持つイケメンの男子です。日本の大人の人と普通に交流したいとの希望で、日本語もほぼ完ぺきであり、私もゆったりとした対応をさせてもらっています。

交流は、基本的には率直に楽しく会話をするよう、心がけております。琵琶湖ドライブ、近江八幡巡りなどには妻も一緒に参加してもらい、拙宅訪問なども通じて日本の社会習慣、庶民の生活などへ理解が深まるよう、自然体で接しました。

私が駐在経験のある東南アジア、中国と違い、韓国は土地勘も風土も理解しておらず、初めてなのでやや心配したものの、特に違和感なく会話できていると思います。無理をせず、個人のできる範囲のことをやらせてもらっており、本人も同意してくれています。こちらからも韓国内の突出したキャッシュレス社会、就職難などの生活事情を勉強させてもらっています。

昨年秋以降は私の方に種々用件があり、会えておりませんが、最近の日韓関係の緊張状態については、本

人も心を痛めていると思います。近々、また会って食事をしながら、個人間の友情、信頼、留学生への支援姿勢は変わらないことを何らかの形で示したいと考えております。

今後も彼が日本で学んでよかったと感じ、そして就職へと向かう留学生生活を少しでもサポートできればと思っています。

## ハجاجジくんのこと

藤岡 徹 (三井住友海上 OB)

三井 V-Net を通じて、海外留学生との交流を始め、もう 10 年を超え、そして 5 人目になるかと思えます。うまく行ったこと、



右筆者 左留学生ハجاجジさん

残念ながらうまく行かなかったことも多々あります。

それぞれ、彼らが、国に帰って元気でやっていることを願うばかりです。今年の年明け早々には、最初に交流した元神戸大学の劉くんが結婚相手をつれて逢いに来てくれました。本当にうれしい思いがしました。

今回は、同志社大の学生を三井 V-Net にお願いしたところ、パレスチナ人の大学院生ということでした。最初は、正直、びっくりしました。しかも実家がガザ地区ということで、昨今の中東および世界各地で起こっている事件を思い起こし、頭の中に少し不安が走りました。三井 V-Net には、万一の際、大学が連携してくださるよう念押しをお願いしました。

学校からの、学生生活上の彼の評判は、たまにドタキャンがあるなど、芳しいものではありませんでしたが、面談した限りでは、少しはにかみ屋のまじめな青年というのが印象でした。

来日して 3 年になります。いまだに、日本語がほとんど話せない中で、今回、彼自



筆者右から 3 人目 (木津里山保全体験)

身の方から、この一対一交流に応募してきたのには、日本人あるいは、日本の文化を知ろうとする、何らかの理由があったのでしょうか。

歩くことが趣味というので、私の趣味と合致し、やはり会員の奥田さんと既に計画していた JR 大阪環状線の下の徒歩一周に、彼も参加し、約 20km を歩きました。その後、三井 V-Net の企画で、今回の須磨の海岸清掃と木津川付近の里山体験に続けて参加しています。みんなとすんなり溶け込める性格とは言えませんが、周囲の参加者とも片言の日本語で、積極的に話そうとしており、今後どのような交流になっていくのが楽しみです。

須磨海岸ビーチクリーンアップに参加して

同志社大学留学生 Mohammad a Hajjaj (パレスチナ)

私の友達が、ボランティア活動として、海岸清掃に参加しようと勧めてきました。場所は、兵庫県神戸市の須磨と



いうところ、JR 須磨駅に近いところでした。私は、数人の友達と清掃するものだと思っていました。しかし、私は当日、私たちのグループだけでなく、たくさんの人たちが、このイベントに参加しているのを知りました。

4 月 28 日、須磨海岸の清掃の呼びかけに応じて、約 200 人のボランティアが集まりました。彼らは、さまざまところから、海岸に散らかっているごみを集めるため、グループを作って集まって来ました。それぞれの団体には、女性や学生、また 10 歳にもならない子供たちも含まれていました。参加者は、周りの献身的な人たちの動きや情熱に触発されていきました。

集まったごみは、その種類別に、3 つに分けられました。すなわち、可燃性ごみ、非可燃性ごみ、そしてたばこの吸い殻のような有害物質でした。

最後に、それぞれチェックされ、所定のところへ廃棄されました。

最初、一見したところでは、海岸はきれいのように見えたが、そうではありませんでした。ボランティアの

人々は一生懸命に働き、砂の中や、岩の間から小さいごみやたばこの吸い殻を、ベストを尽くして集めていました。



周りには、たくさんの汚れたアイテムや散り散りのプラスチック片あるいは、犬のものとみられる動物の汚物もありました。

主催者は、清掃に必要な機材や用具を準備していましたが、必要ならば、参加者たちは、自ら手を使ってでも作業しているほどでした。

最後に海岸は、完全にきれいになりました。私たちは、協力して作業をするという、いい経験をしました。そして、またいつか、別の場所でこのようなことが、行われることを期待しています。

それから、私たちは一緒に昼食をとりながら意見交換や歓談をしました。

## わくわくする人との出会い

### 一人と防災未来センターのボランティア活動―

川勝博史（登録会員）

2018（平成30）年4月より、人と防災未来センター2階のフロアで月3回程度活動してきました。このフロアは、来館者の方が映像や被害のデータによって学習をする部分とゲーム感覚で災害・防災について学習したり、実験を見たりする部分とからなり、低年齢の子どもたちから、高齢者まで、幅広い来館者に対応した展示になっています。



この施設自体が、阪神淡路大震災の経験と教訓から生まれた深い意味を持つものですが、その中でのボランティア活動もまた、震災の有形・無形の遺産を伝える活動のお手伝いとして大変重要です。国の内外から来られる多くの来館者の方々と交流はととても充実したものとなっています。国内からは、小学、中学、高校、大学と若い人たちも多く、楽しく活動しています。

例えば、日本地図の各地方を組み立てるジグソーパズルがあるのですが、それにとっても興味を持って、全てを素早く仕上げた小学3年生の



中央筆者と来館者ご夫妻

男の子がいて驚きました。そばにいたお母さんは、「鉄道の関心から地理が好きになったようです」と、おっしゃっていました。

海外からも、たくさんの方が旅行の途中に立ち寄られます。私の活動日には、アジアでは、中国、台湾、ベトナム、韓国、インドネシア、インド、シンガポール、タイ、マレーシアなど、南北アメリカはもちろん、ヨーロッパでは、イギリス、フランス、ドイツ、ポーランド、ベルギー、オランダの方々、そして南アフリカの方々もお迎えしました。また、災害に備えての視察でフィンランドの方々も見えました。このように、世界中の方々と出会うことができるのが、このセンターでのボランティア活動の大きな魅力です。自分の活動日に世界のどこから来館者があるのか、大変楽しみです。どの国から来られても高い防災意識を持った人は少なくないということがよく分かります。印象に残っている海外の来館者としては、個人旅行でアメリカ（確かオハイオ州でしたか）から来られた男性が、サイクロンの被害について話しておられたのを覚えています。この災害に備えて、家の下にシェルターを作っているとのこと。さもありなん、と納得しました。また、カナダ出身で、今早稲田大学に在籍しているという男性は、日本のことが大好きで、その言葉や文化について、あらゆることを知りたいと話されていました。このようなお話を聞くのは、大変うれしいことです。

これら以外にも、活動する中で得られるものは、いろいろあります。ボランティア1年目は、施設案内として、この施設全体の学習も兼ねて、活動させていただきました。今年から、英語で案内を担当することになりました。英語についても、災害についても、さらに研鑽を重ねて、より楽しく活動できるようにしていきたいと思っています。

## “一生に一度”

東 光子 (三井物産 OG)

三井 V-Net 関西支部から「ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会」ボランティア募集の案内をいただき、W 杯史上最高の応募者数 38,000 人超えの中から、幸運にも 13,000 人の一人に選ばれて、晴れて「TEAM NO-SIDE」の一員となりました。



私は 30 歳台からボランティアに参加していますが、今大会は初めて体験するボランティア育成システムでした。申し込み・当落発表・各種トレーニングのほとんどが公式サイト上で行われました。中でもラグビーの発祥・ルール・参加国の紹介・活動に役立つ基本知識等々の学習は必修で、講習のお陰で、大会開始時にはおおむね把握できていました。

私の担当は神戸地区で「街なか&ファンゾーン」。スタジアムから少し離れたメリケンパークが活動場所でした。試合前から各国のユニフォーム・キルト等の民族衣装、応援ウエアを着たファンが集まり、応援歌の大合唱、対戦国のファン同志がお互いの健闘を祈る握手、ハグ・談笑……ビールも売り切れるほどの大盛況。スタジアムに負けない盛り上がりで大興奮でした。そして、ファンの皆さんのマナーの良さに驚かされました。

今回初めて知ったのですが、なんとラグビーの優勝賞金は 0 円です。「大会に出場することが最大の荣誉」とされ、優勝賞金は設定されていません。その代わりに優勝チームの選手には純金製の金メダルが授与されるほか、優勝カップ「ウェブ・エリス・カップ」の台座に歴代優勝チーム名が刻印されます。選手たちはそれを目指して日夜努力しています(ちなみに 2018 年のサッカー W 杯の優勝賞金は 43 億円でした)。

神戸での活動は 10 月 8 日で終了、20 日の準々決勝南アフリカ戦は、大阪市内のパブリックビューイングで観戦、応援しました。南アフリカの半端ないフィジカルに屈しましたが、「ノーサイド」の後のセレモニー

では、会場も感動・感謝の涙、涙……号泣。まだまだ興奮は冷めやりませんが、この世界的ビッグイベントに参加できたことは、生涯の自慢の一つとなりました。

ホスト国としてのニッポンの One Team にも拍手です。

「礼に始まり礼で終わる」日本の“おもてなし”精神は世界各国から称賛されています。

One for all! All for one! One Team!

この精神を今後の活動に生かしていきます!



## 中国支部

### 訪問演奏活動への取り組み

二胡アンサンブルグループ・ピアノニッシモ代表  
平中恵子 (登録会員)

約 10 年前より中国の楽器、二胡の合奏で福祉施設や病院に訪問演奏に伺っています。最初は人前での演奏は慣れないため、聴いて下さる皆さんに迷惑をかけていたことと思います。しかし練習を重ね、訪問演奏の回数も増え、最近は年間 10 数回演奏活動を行っています。今では毎年何うたびにまた来て下さいとお声をかけて下さる施設が何ヵ所もあり練習の励みになっています。

合同練習は月 2 回から 3 回、遠くは福山、東広島から参加し、年齢層も幅広く 40 代から 70 代まで、二胡





歴10年以上のベテランから3、4年のまだまだ新米メンバーと一緒に切磋琢磨しています。

去年3月には沖縄に演奏旅行に行きましたが、日頃の練習成果が十分発揮できたステージになりメンバーの絆も深まったのと同時に演奏レベルも上がり貴重な経験となりました。

家族も自分も皆元気で、時間も自由に取れ仲間同士で訪問演奏に伺えることを感謝しつつ、生涯学習としてこれからも楽しく永く続けていければと思っています。

### 三井ボランティアネットワークへの参加

平岡亮太（三井情報株式会社現役）

私が広島に来たのは3年前の2016年4月のこと。はじめての単身赴任で知人もおらず、この広島のことほとんど知りませんでした。仕事の調子もよく、広島のイベントではG7（外相会合）、オバマ大統領の来広、カープの25年ぶりの優勝など広島の一体感を感じられるさまざまな経験をさせていただきました。その広島に何か自ら協力できることを探し出会ったのが三井V-Netでした。毎月行われている平和公園の清掃活動への定期参加のほか、8月6日平和記念式典での車椅子介助活動、障害者と広島交響楽団のジョイントで行われるマーガレットコンサートでの車椅子介助活動、毎年恒例の全国男子駅伝「天皇盃」でのコース警備員などに参加させていただきました。平和記念式典での車椅子の介助活動では地元を含め全国から来られる高齢や障害をお持ちの方の車椅子の補助をします。生まれて初めて車椅子を押しましたが、乗っている方の感じ方も体験できとても貴重な経験となりました。

さまざまな活動を通じて、広島の人たちの暖かさや、古いものを大事にする気質、新しいものを受け入れる柔軟さを感じています。

ここ広島にいる間はできる限り三井V-Netを通じて微力ながら力を提供したいと思っています。



### 天皇盃 第24回全国都道府県対抗男子駅伝競争大会[ひろしま男子駅伝] ボランティアに参加して(2019年1月20日)

中国支部事務局

「天皇盃 全国都道府県対抗男子駅伝競走大会」は、国際平和文化都市広島を舞台に、「中学生」、「高校生」、「大学生、社会人」で編成されたチームでたすきリレーを行う47都道府県対抗男子駅伝競走大会です。平和記念公園前をスタートし廿日市市宮島の巖島神社が見える対岸を折り返し平和記念公園前に戻ります。ユネスコの世界文化遺産である原爆ドームと巖島神社を結ぶ、7区間48.0kmのコースとなっています。

今大会三井V-Netで初めてボランティア参加をしました。三井V-Net会員、三井グループ企業へボランティア参加を呼びかけ、事務局2名を含めて12名でボランティア活動をおこないました。担当場所は廿日市市役所前で応援の方々が道路に出ないように沿道の整理を行います。当日は午後から天気も回復し暖かくボランティア活動のしやすい天候でした。沿道の応援の方々も精いっぱい声で応援していました。応援する方々も慣れたものでランナーの邪魔にならないようにしっかり応援していました。今回初めての参加でしたが、ひろしま男子駅伝がより身近になったボランティア活動でした。



### 第18回 ひろしま山の日 県民の集いに参加しました(2019年6月2日)

中国支部 事務局

広島県では「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」をテーマに、ひろしま「山の日」に県民の集いを行なっています。6月の第1日曜日を広島県の「山の日」とし



て定めており、今年は6月2日に「ひろしま山の日 県民の集い」が開催されました。

広島県内15市町15会場で山の手入れ等いろいろな山にちなんだ行事が催されました。毎年その中で広島市の中心から一番近い広島県緑化センター会場の「山の手入れ」に参加しています。三井V-Netからは17名(内、お子さんが2人)が参加しました。天候が心配されましたが幸いにも曇り空で雨も降らず作業しやすい日でした。

午前10時よりレストハウス前広場にて開会式があり少年野球の選手たちの挨拶が終わり、ヘルメット、手ノコを腰につけ、山の手入れ場所「さくらの森」へ移動しました。多少のアップダウンがあるものの軽い山のハイキング程度で、30分ほどで到着。指導者の指示に従って木の成長の妨げになる木を徐伐しました。指導者から木の切り方を習い早速開始です。こうして木を徐伐することにより木の根がしっかりと地面に根をおろし災害に強い山になるのだと改めて認識しました。心地よい汗をかき清々しい気持ちで作業を終了しました。作業終了後は三井V-Netの皆さんで昼食をとり解散となりました。事故もなく一安心でした。



## 新元号「令和」記念植樹祭に参加して (2019年8月11日)

中国支部 事務局

新元号「令和」を末永く記念するため、8月11日の国民の祝日「山の日」に合わせて令和記念植樹祭がおこなわれ、三井V-Netより6名参加しました。1人1本のオーナー苗(レンゲツツジ)を植樹する活動です。



このレンゲツツジの植樹は「山の日」が制定されてからの活動で4回目となります。「山の恩恵を見つめなおそう」、「里山について理解を深めよう」をテーマに行われています。もみのき森林公園から小室井山(標高1072m)に登りました。途中、湿地帯に黄色い花の群生がありました。この花は何だろう、「ひまわり?」。ひまわりからすぐ連想するソフィア・ローレン、でもちょっと違いました。「ハンカイソウ」という東海から西日本の山地の湿ったところに生える多年草だそうです。一面に咲くハンカイソウ、なかなか見応えがあり行きも帰りも楽しむことができました。約1時間30分の登山で小室井山の頂上に到着。早速植樹を開始しました。穴を掘り肥料をまぜ、苗を植え踏み固めて水をやります。来年の植樹祭を楽しみに祈りを込めて植樹を行いました。あとで聞いた話ですが肥料が手違いで届いてなかったそうで肥料と思って混ぜていたものは土を改良するものだったそうです。後日、「NPO法人 人と樹の会」の方が固形の肥料を撒いていただいたそうです。

お世話頂いた主催の「NPO法人ひろしま人と樹の会」の皆さまには、植樹のためにレンゲツツジ苗木、水、スコップ、お弁当にお茶を頂上まで運んでいただき準備作業ありがとうございました。



## 花キューピットウィメンズジャパンオープンテニスチャンピオンシップスボランティアに参加して(2019年9月9日~15日)

中国支部 事務局

2018年より会場を広島に移した花キューピットウィメンズジャパンオープンテニスチャンピオンシップスに会



場係としてボランティアに参加しました。三井V-Netからは5名延べ15名参加しました。会場係としてセンターコートの4つの出入口にて観客の



皆さんへ指定席の案内をする係です。この大会はWTA (Women's Tennis Association) の3番目(グランドスラム、プレミアムに次ぐインターナショナルというグレードの大会)に位置づけられています。世界のトップを目指す選手たちの大会となっています。今年の大会は天気恵まれ晴れの日が続きました。連日33℃以上で、とても暑い日がつづき選手は大変そうでした。われわれボランティアも日陰にいても暑く汗ばんできます。熱中症にならないよう水分補給をしながらの活動でした。最初は座席番号を見てもどこの席なのかすぐには分からず、まごまごしていましたが徐々に慣れスムーズに観客席を案内ができるようになりました。本戦2日目はフルセットの試合がつづき午後10時近くまでかかりました。この日を担当した方は大変だったと思います。お疲れさまでした。今回の花キューピットオープンのボランティアは、初めての参加で参加会員の方もいい経験ができたことと喜ばれておられました。

なお、試合の結果はシングルス、ダブルスとも日本人選手の優勝で幕を閉じました。



## 2019 PEACE CUP 第30回 国際／国内 交流車いすテニス大会ボランティアに参加して

中国支部 事務局

今回で30回となる2019 PEACE CUP Hiroshima 車いすテニス大会へボランティアとして参加しました。この大会には国際テニス連盟 (ITF) 車いすテニスツ

アーで歴代の優勝者として4大会優勝、パラリンピックメダリストの国枝慎吾選手、上地結衣選手がいます。海外から(中国、台湾、タイ)12名、国内120名が参加し熱戦が繰り広げられました。しかし残念ながら今年でこの大会は最後の年となるそうです。

大会は10月17日からの4日間でしたが大会準備のために16日から活動しました。インドアコート4面を含めて20面のコートで試合を行います。ボランティアは選手がコートに向かう際の競技用車いすをコートまで運ぶ補助をします。インドアコートは他のコートより離れており、さらに低い位置にあります。インドアコートで試合が終わった選手は大会本部へ戻るためには坂を上がらなくてはなりません。坂の上までボランティアが車いすを押して上がります。「ありがとうございます」と選手からお礼を言われます。健常者にはそれほどでもない坂でも車いすで自分で上がることは大変なことだと改めて分かりました。

大会初日の夕方から3日目の午前まで雨が降り、その間はインドアコートのみで試合が行われ、車いすが乗り降りできるリフト付きの車で選手を運びます。選手が乗ると競技用車いす、ラケットなどを車に乗せ、コートに到着すると車いす、ラケット、選手を降ろすことが主な活動でした。大会を通じて車いすの方にとってもっと優しい環境が必要だと感じました。このテニスコートは1994年の広島アジア大会の際に作られたものです。センターコートのエレベーターは1機しかなく、競技用車いすの車輪は八の字になっておりそのままでは入らず車輪を外す必要があります。ちょっとしたことが実状に合っていないことが多々あると気づくことができた活動でした。





人と人のまんなかに。

## 2018年度「三井 V-Net」名義によるダルニー奨学金への支援報告

事務局

三井V-Netでは「書き損じなどによる未投函の日本郵政製はがき」や「未使用切手」を日ごろより収集し一年ごとにとりまとめて換金のうえタイ国の経済的に恵まれない家庭の子どもたちに中学校における基礎教育の機会を提供するための奨学金として役立てております。

2017年の1月から12月までに三井V-Netの本部(東京)および関西支部(大阪)中国支部(広島)の各事務局にお寄せいただいたご提供品は、公益財団法人「民際センター」にて展開している国際教育里親型支援「ダルニー奨学金※」に「三井V-Net」の名義にて2018年度分として活用いたしました。現在、一年間にひとりの学生に必要とされる奨学金は14,400円となっており、おかげさまで8名の子どもたちの学費に充てることができ、そのうち5名が2018年度をもって無事3年間の中学校生活を全うすることができました。

ボランティア会員の皆さまはじめ、運営会員会社の現役社員の皆さまや三井V-Netのニューズレターやホームページをご覧いただきご協力くださった会員以外の多くの皆さまにも現地の奨学生に代わりまして厚く御礼申し上げます。

ぜひご友人やお知り合いにもお声かけいただきまして、引き続き心温まるご支援をお願い申し上げます。

※ダルニー奨学金に参加することにより支援する子どもの報告書(写真とプロフィール)が届き「顔が見える、成長が見守れる、1対1の教育支援」としてより身近に実感することができます(公益財団法人民際センター ホームページより)



皆様のご協力により2018年度に新一年生となったタイの女子中学生(ご支援によりこの学生の卒業までの3年分の学費は確保されています)

## 物品ご提供による支援のお願い

三井V-Netでは下記の物品を随時収集しております。ご提供いただいた品々は年末に一年分をとりまとめ協力団体を経て換金し東南アジア僻地の子供たちの中学就学のほかインド・インドネシアでの持続可能な農業や農村開発のプロジェクトへの支援金として役立てております。支援金のもととなる物品につきましては ボランティア会員様に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたい お知り合いにもぜひお声掛けかけ願います。ご協力を心よりお待ちいたしております。。

### ご提供 いただきたい 物品

- 日本郵政製未使用(書き損じ含む)はがき
- 日本郵政製未使用切手(海外切手は不可)
- 使用済み切手(周囲を5mm程度残して切り取り、国内/海外 分別願います)
- プリペードカード(未使用のみ)



※使用済みインクカートリッジは情勢の変化により収集を取り止めました。これまでのご協力に感謝申し上げます。

### ご提供品送付先

三井ボランティアネットワーク事業団の本部  
もしくは各支部あて

- 本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3F  
TEL: 03-5570-2181 FAX: 03-5570-8035
- 関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7F  
TEL: 06-4396-8680 FAX: 06-4396-8681
- 中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 中川ビル5F  
TEL/FAX: 082-222-5101

# 三井ボランティアネットワーク事業団 (三井V-Net) 皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、以て三井グループ全体の社会貢献とすることを主たる目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。

<b>ボランティア活動会員登録票</b>		(関東地域) 03-5570-8035 FAX (関西地域) 06-4396-8681 (中国地域) 082-222-5101	
三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net) 御中			
貴事業団を通じたボランティア活動への参加を申込みます。			
		記入日	西暦 年 月 日
氏名	(フリガナ)	生年月日	西暦 年 月 日
		性別	[ ]男 ・ [ ]女
住所	郵便番号 -		
自宅電話番号	- -		
自宅FAX番号	- -		
携帯電話番号	- -		
メールアドレス			
出身企業/勤務先			
以下の活動についてご希望される項目に○印を入れて下さい(複数可)			
希望する ボランティア	① [ ] 国際交流(留学生と日本語を通じての交流・文書作成の支援等)		
	② [ ] 環境保全(河川敷・海岸等の掃除、水源林地域保全活動)		
	③ [ ] 医療(病院外来の案内・図書整理・演奏活動等)		
	④ [ ] 福祉(福祉施設内の草刈・掃除、福祉団体主催イベントでのお手伝い等)		
	⑤ [ ] 文化・教育(文化施設でのお手伝い等) ※関西・中国支部のみ		
	⑥ [ ] スポーツ支援(マラソン、ゴルフ会場での支援) ※関西支部のみ		
会員登録の動機について該当項目に○印を入れて下さい(複数可)			
[ ] 出身企業の紹介	[ ] ホームページを見て	[ ] ニュースレターを見て	[ ] ちらしを見て
[ ] 知人( )の紹介	[ ] その他( )		

上記入手の個人情報は、個人情報保護法の方針に従って厳重に管理し、ボランティア活動に必要な範囲内に限り使用させていただきます。

## 三井ボランティアネットワーク事業団

本 部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階  
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7階  
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 中川ビル5階  
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101

ホームページからも登録していただけます。 <http://www.mv-net.com/>